

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	倫理学 1 単位 30 時間	
開講時期	1 年次 後期	
担当教員	竹之内裕文	
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>わたしたちは一人として、「死」を免れない。だからこそ「死とともに生きることを学ぶ」必要がある。「あなた」と「わたし」はいずれ死ぬだろう。そのことを「知っている」からこそ、そこに到るまでの歩みを、よりよいものにしようと努める。いつか死ななければならぬと知っているからこそ、わたしたちは一つひとつの事柄について吟味し、選択を下し、それを通して自分なりによく生きようと試みる。その試行錯誤とともに、生きる歩み、死にゆく歩みは、少しかたちを変えるのだ。</p> <p>本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	ガイダンス (到達目標、具体的な進め方、成績評価、対話の準備)	講義
2 回目	ワールドカフェ～序章「どうして生きてきたのですか？父との別れと出会い」	講義
3 回目	テキストをめぐる対話① 1 章「介助することと哲学すること 「自立ホーム」で学んだこと」	講義
4 回目	テキストをめぐる対話② 2 章「「人間」の出来事としての死 在宅緩和ケアの現場で考えたこと」	講義
5 回目	死生学カフェ①	講義
6 回目	テキストをめぐる対話③ 3 章「土地における「生」の継承 死者とともにある農村との出会い」	講義
7 回目	テキストをめぐる対話④ 4 章「いのちに与って生き、死ぬ マタギの背中を追いながら考えたこと」	講義
8 回目	死生学カフェ②	講義
9 回目	テキストをめぐる対話⑤ 5 章「限界づけられた生の希望 共に生きること、本当に生きること」	講義
10 回目	自主製作映画『生かされて生きる』鑑賞	講義
11 回目	テキストをめぐる対話⑥ 6 章「森と湖の国の「福祉」 他者とともに生きるためのレッスン」	講義
12 回目	テキストをめぐる対話⑦ 7 章「人間の生の拠り所としての ホーム ホスピス運動の源流から展望する」	講義
13 回目	死生学カフェ③	講義
14 回目	テキストをめぐる対話⑧ 終章「死すべきものたちの哲学 死とともに生きるための実践」	講義
15 回目	死生学カフェ④	講義
評価方法	次のポイントを合算して評価する。1) フィードバックシート：8 点満点×9 回=72 点、2) 全体対話での発言 1 回あたり 4 点。	
受講生に対するメッセージ	授業は、テキストの各章（序章～終章）をめぐる対話（9 回）と受講者全員で問いを立てる死生学カフェ（4 回）により構成される。テキストをめぐる対話（全 9 回）の準備作業として、受講者は各章を事前に読み、フィードバックシートに必要事項を記入したうえで、授業に臨むこと。	
テキスト	『死とともに生きることを学ぶ——死すべきものたちの哲学』（竹之内裕文著、ポラーノ出版）	
参考書	『喪失とともに生きる 対話する死生学』（竹之内裕文・浅原聡子編、ポラーノ出版）、『七転び八起き寝たきりのいのちの証し クチマウスで綴る筋ジス・自立生活 20 年』（阿部恭嗣著、竹之内裕文編、新教出版社）	